

平成16年2月期 第二級陸上特殊無線技士 試験問題

法 規 12問 } 24 問 1 時間  
無線工学 12問

法

規

〔1〕 電波法の規定により、免許人があらかじめ総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）の許可を受けなければならないのは、次のどの場合か。

1. 無線局を廃止しようとするとき。
2. 無線従事者を選任しようとするとき。
3. 無線局の運用を休止しようとするとき。
4. 無線設備の変更の工事をしようとするとき。

〔2〕 次の文は、電波法に規定する「無線局」の定義であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線局とは、無線設備及び の総体をいう。ただし、受信のみを目的とするものを含まない。」

1. 無線設備の操作を行う者
2. 無線設備を管理する者
3. 無線通信を行う者
4. 無線設備の所有者

〔3〕 次の文は、電波の質に関する電波法の規定であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「送信設備に使用する電波の 及び幅、高調波の強度等電波の質は、総務省令で定めるところに適合するものでなければならない。」

1. 総合周波数特性
2. 周波数の偏差
3. 変調度
4. 型 式

〔4〕 無線従事者は、その業務に従事しているときは、免許証をどのようにしていなければならないか、次のうちから選べ。

1. 携帯する。
2. 無線局に備え付ける。
3. 通信室内に保管する。
4. 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所に掲げる。

〔5〕 無線従事者がその免許を取り消された場合、無線従事者の免許が与えられないことがあるのは、取消しの日からどれほどの期間か、正しいものを次のうちから選べ。

1. 5年
2. 3年
3. 2年
4. 1年

〔6〕 第二級陸上特殊無線技士の資格を有する者が空中線電力10ワット以下の陸上の無線局の無線設備（多重無線設備を除く。）の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができるのは、電波の周波数がどの範囲のものか、次のうちから選べ。

1. 1,000キロヘルツから3,500キロヘルツまで
2. 1,606.5キロヘルツから4,000キロヘルツまで
3. 2,000キロヘルツから5,000キロヘルツまで
4. 4,000キロヘルツから8,000キロヘルツまで

## 法

## 規

〔7〕 次の文は、なるべく擬似空中線回路を使用しなければならない場合についての電波法の規定であるが、☐ 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線設備の機器の ☐ 又は調整を行うために運用するとき。」

1. 試験
2. 開発
3. 研究
4. 調査

〔8〕 無線従事者が電波法に基づく命令又はこれに基づく処分に違反したとき、総務大臣から受けることがある処分は、次のどれか。

1. 1年間の無線局の運用停止
2. 6か月間の業務の従事停止
3. 3か月間の無線設備の操作範囲の制限
4. 無線従事者の免許の取消し

〔9〕 無線局の発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認められるとき、その無線局についてとられることがある措置は、次のどれか。

1. 周波数又は空中線電力の指定を変更される。
2. 臨時に電波の発射の停止を命ぜられる。
3. 空中線の撤去を命ぜられる。
4. 免許を取り消される。

〔10〕 電波法に違反して運用した無線局を認めたとき、電波法の規定により免許人がとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 総務省令で定める手続により総務大臣に報告する。
2. その無線局の電波の発射を停止させる。
3. その無線局の免許人にその旨を通知する。
4. その無線局の免許人を告発する。

〔11〕 基地局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、次のどの箇所に掲げておかなければならないか。

1. 無線局の適当な箇所
2. 通信室内の見やすい箇所
3. 受信装置のある場所の見やすい箇所
4. 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所

〔12〕 無線局の免許人は、主任無線従事者を選任又は解任したときは、電波法の規定により、どのような手続をとらなければならないか、次のうちから選べ。

1. 1か月以内にその旨を報告する。
2. 3か月以内にその旨を報告する。
3. 遅滞なくその旨を届け出る。
4. 2週間以内にその旨を届け出る。